Population-based Health Management :

一次予防から三次予防、そして、コミュニティ・オーガニゼーションへ

広島大学大学院医歯薬保健学研究院 森山美知子

Disease Managementから Population-based Health Managementへ

特定の慢性疾患や状態の重症化予防に焦点を当てた、いわゆる古典的な Disease management (疾病管理) は、特に米国におけるさまざまな社会実験を経て、かかりつけ医 を中心としたプライマリケアの支援に、そして、End-of-life care から Wellness、ハイリ スクからローリスクまでの、疾病管理を含む幅広い健康スペクトラムを対象としたモデル (Population Health Management, Population Health Improvement Model) へと変化して きている (図 1)。

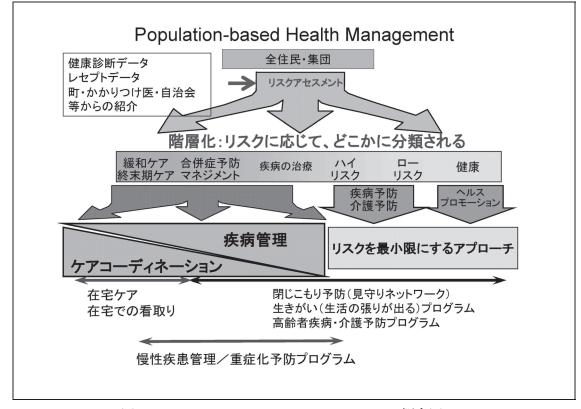


図1 Population-based Health Management 概念図 (Warren Todd 氏のスライドを改変)

時代の変化と共に:基本理念の重要性

コミュニティの変化、職場の変化、家族をもたない者の増加など、人々の親密な相互支 援関係が希薄になり、生きる意味や目的が見出せない者も増加し、人々の健康リスクは増 大している。社会的なストレスが、人々の生活に影響を及ぼし、健康障害をもたらす。 Population-based Health Management では、地域の抱える問題/集団の抱える健康リスクを アセスメントし、地域/集団の構成メンバーを巻き込んだ対策が必要となる。構成メンバー の主体的参加とリーダーシップ、発症予防から重症化予防/慢性疾患管理までの self management 支援/医療者等との collaborative care の立案と実施、適切なサービスのケア コーディネーションなど、地域/集団の健康向上に向けたデザインが必要となる。 そして、健康支援に関わる者には理念と愛情が必要である。「少しでも良くなってもらい たい」「幸せな人生を生きてほしい」と強く願う意識である。健康支援をしていくことは、 その人の人生そのものにかかわることにつながる。その人の成長を信じること、可能性を 信じることがスタートとなる。健康管理は、実は欲求の高い段階に位置付けられる。生理 的欲求や安全・帰属、愛情の欲求が満たされてこそ、「守りたい誰かのために、未来のため に健康を維持しよう」という意識になる。健康支援を行う際には、その人の本質的な問題 や障害を見極めながら、それを一緒に解決していくという姿勢が鍵になる。

Population-based Health Management:コミュニティ・オーガニゼーションに向けて

「地域を丸ごとケアする。」住民が主体的に地域の問題に取り組み、解決策を示していく「コ ミュニティ・エンパワメント」を基本とし、wellnessから end-of-life care までを視野に 入れるのである。早期発見、閉じこもり予防などリスク低減管理、そして、重症化予防/ 疾病予防、在宅看取りの推進。生体センサやさまざまな IT・コミュニケーション手段を 用いて、人々が住み慣れた家・地域で最期まで過ごせるように、アイデアを生かしながら、 新しい健康に関するサービス提供体制を構築したいと考える(図 2)。

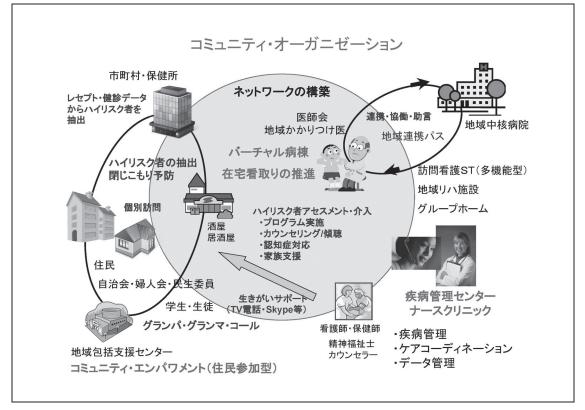


図2 Population-based Health Management の展開案

<u>必要なサービスのイノベーション</u>

地域には、安定した暮らしを支えるために必要な資源が圧倒的に不足している。重症度 の高い難病患者、高齢独居/夫婦世帯、認知症、うつなどの社会復帰に困難をきたす者、 精神疾患、ホームレスなどの貧困や社会的弱者へのサービス。「施設ケア」の発想から抜け 出し、必要なサービスを創造・構築して、地域で人々を支えたい。 地域で人々が最期まで安心して暮らせるために!